

# 決意および提案

平成23年3月14日  
札幌地区ベンチャー会議有志一同

私たち札幌地区ベンチャー会議有志一同は緊急会議を開き、3月11日に発生した「東北地方太平洋沖地震」で被災された方々が、一刻も早く元通りの生活を取り戻せるように、『いつも他の人々を助ける』ボーイスカウトの精神に基づき、以下の支援を行うことを決意し北海道連盟として活動することを提案します。

私たちの決意・提案を道内の各団に連絡して「北海道のボーイスカウト」が活動に取り込まれるように協力してください。

## 【目的】

2011年3月11日に発生した大地震に伴う津波などの災害によって広範囲に渡って大きな被害を受けた方々への支援を行います。

また、この活動はボーイスカウトのネットワークのもと、全道一斉に行うことにより社会的な広がりを求めます。

## 【活動内容】

- ◎ 街頭での救援募金活動
- ◎ 生活支援物資の提供
- ◎ 被災したスカウトへの励まし活動

## 《救援募金活動》

### 〔方法〕

- ◇ 広く地域社会の人たちと“助け合いの輪を拡げるために”地区・団でまとまって行います。
- ◇ 募金に応じて下さる方々への責任に応えるため、隊集会などで手作りで「のぼり」「募金箱」などを作り、ボーイスカウトが行っていることを明らかにして行います。
- ◇ 一時的な活動にならないように、継続的行います。
- ◇ 募金の成果を社会的に説明するため、集まった義援金は北海道連盟事務局に送金して、北海道連盟のスカウト代表が、共同募金会、日本赤十字社、マスコミなどの公的機関に預けてください。

### 〔活動期間〕

- ◇ 道内の各地区・団では、3月19日（土）・20日（日）・21日（月・祝）または3月26日（土）・27日（日）など3月中に集中的に活動を行います。
- ◇ 継続的に4月にも活動を行うと良いと思います。

## 《生活支援物質の提供》

### 〔目 的〕

被災地では、住宅、燃料、衣類、食糧など様々な日常生活に必要な物質が不足していると報道されています。

一方、阪神大震災や奥尻沖地震では沢山の不要な衣類が集まり、その整理に大変な手間がかかったと聞いております。

そこで、ビーバースカウトからローバースカウトまで、指導者、団委員など皆が参加できて、ボーイスカウトの家庭にあり、被災されている方々が直ぐ役に立つ生活支援物質を贈ることを考えました。

### 〔方 法〕

#### ◇ 被災された方々に『タオルを贈る運動』

『タオル』は、被災された方々の日常生活で様々な用途で利用できて、何枚あっても役に立つものと思います。

また、使っていない『タオル』がスカウト達の家庭にあり、簡単に集めることができます。

#### ◇ スカウトや指導者、団委員などの家庭にある『タオル』を隊・団で集めて、団または地区毎に北海道連盟事務局に送ります。

北海道連盟は救援活動を行っている公的機関か東北県連盟と相談して、被災者に贈ってください。

#### ◇ 贈る『タオル』は、未使用な物か、洗濯してきれいな物とします。

## 《被災したスカウトへの励まし》

被災したスカウトの仲間に『スカウト用品の寄付』『励ましやお見舞いの手紙や絵を贈る』『現地スカウトとの復興支援交流・支援（落ち着いてから）』などが考えられますが、具体的な内容や方法について、被災地の状況などを考えて指導、支援をしてください。

### 【緊急会議に参加した札幌地区ベンチャー会議有志】 順不同

代 表：	樋口 大樹	(札幌第12団)
幹 事：	八代 卓磨	(札幌第12団)
幹 事：	中門 亮介	(札幌第27団)
メンバー：	中屋敷 耀文	(札幌第3団)
	長尾 つばさ	(札幌第3団)
	川端 司	(札幌第9団)
	長田 将	(札幌第12団)
	小野寺 諒洋	(札幌第14団)
	廣川 真子	(札幌第14団)
	前谷 慎太郎	(札幌第24団)
	中田 帆南	(札幌第24団)
	中田 圭亮	(札幌第24団)